

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No409
(次期学習指導要領にむけた審議まとめの方向性)

②補足Part2 現場の授業力に配慮して高次の資質・能力は評価せずー現実対応、それで現場は変わるか？

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

審議まとめの方向性

①「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか

②「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？

②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー

②補足Part2 現場の授業力に配慮して高次の資質・能力は評価せずー現実対応、それで現場は変わるか？

③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ

④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？

⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか

No404

②「中核的な概念」の深い理解から 「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、 最後の問題点は？

ここを押さえよう！

次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)

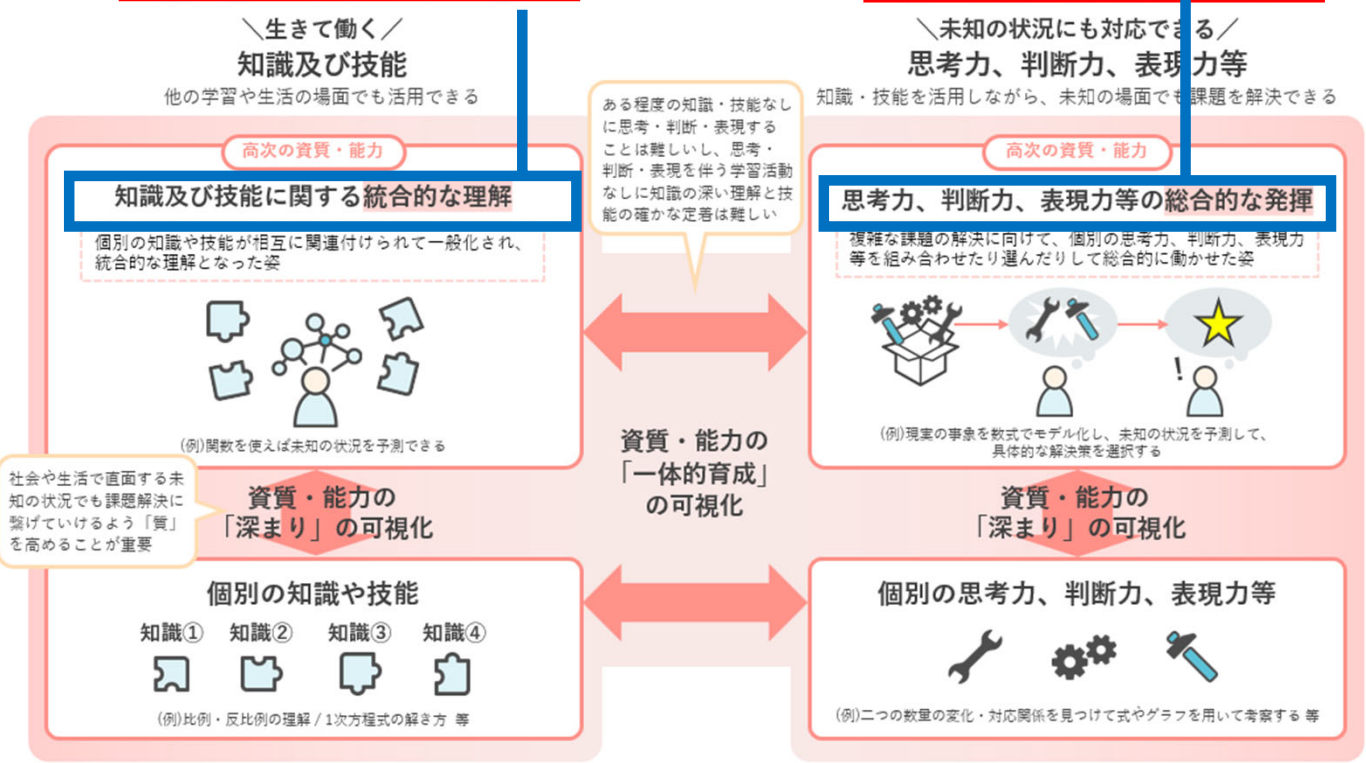


統合的な理解 と 総合的な発揮

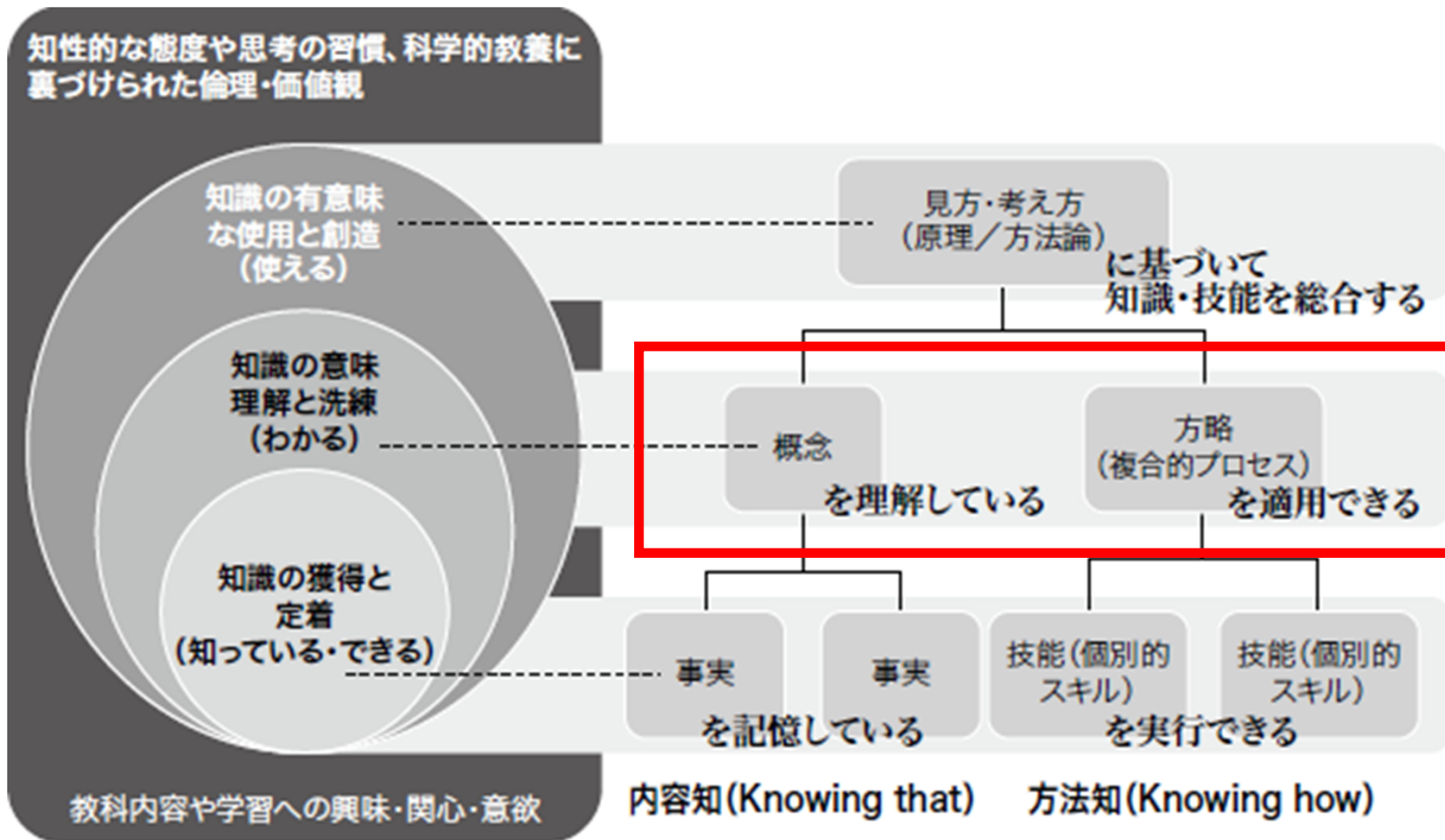
『論点整理』（2025年9月25日）

知識及び技能に関する 統合的な理解

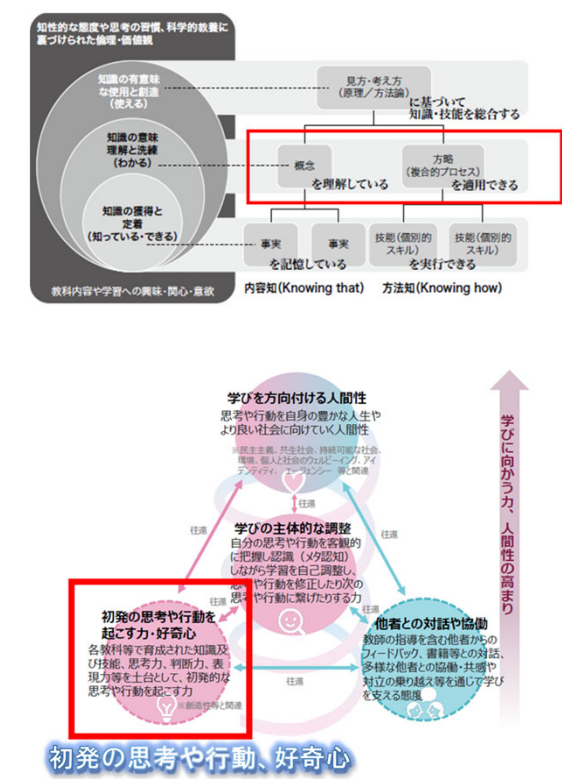
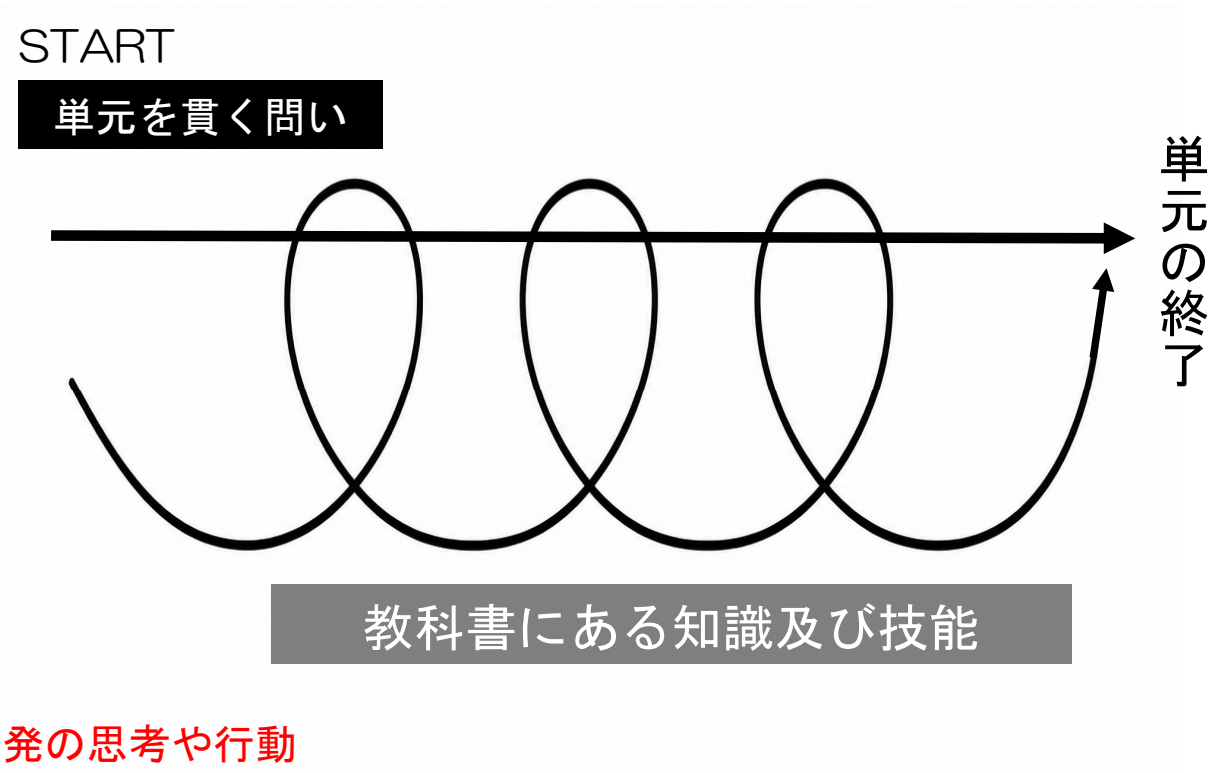
思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮



(参考) 知の構造 に対応させた深い学び



概念レベルでの授業づくり(=概念型授業[指導・学習])



(例：中学生の歴史) 「明治政府はどのように国づくりを進めたのだろうか」 (帝国書院)

No405

②補足 高次の資質・能力の上限を 定めよー単元を超えるか否かー

ここを押さえよう！

次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)



最後の問題点

1 「見方・考え方」との関係

2 高次の資質・能力の「高次」はどこまで？

高次の資質・能力

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
私たちの生活と市区町村 - 市区町村の様子	(1) 身近な地域や市区町村の様子	身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所による違いがあること、時間の経過とともに移り変わってきたことなどを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市区町村の地理的環境や移り変わり、人々の生活の変化について考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
	(2) 市の様子の移り変わり		
私たちの生活と市区町村 - 地域に見られる生産や販売の仕事/地域の安全を守る働き	(3) 地域に見られる生産や販売の仕事	・地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることや消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めようと工夫して行われていることを理解する。 ・地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。	・位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生産や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。 ・人々の相互関係などの視点に着目して、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	(4) 地域の安全を守る働き		
私たちの生活と都道府県 - 都道府県の様子	(1) 都道府県の様子	自分たちの都道府県は、地形や産業など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることなどを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、県の地理環境の特色や県内の地域の特色を考えて、
	(2) 県内の		

内容のまとめ

目標と内容

私たちの生活と都道府県 - 人々の健康や生活環境を支える事業/自然災害から人々を守る活動	(3) 人々の健康や生活環境を支える事業	・人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持と向上に役立っており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。 ・自然災害から人々を守る活動は、これまで関係機関や地域の人々が連携して対処してきたり、今後の災害に対して様々な備えをして、人々を自然災害から守っていることを理解する。	・位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。 ・時期や時間の経過、人々の相互関係などの視点に着目して、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	(4) 自然災害から人々を守る活動		

目標と内容に基づいた「指導と評価の一体化」(学習評価)

内の伝統や文化、先人の働き	伝統や文化、先人の働き	地域の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。	地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
---------------	-------------	--------------------------	---

2章 健康な暮らしとまちづくり

- | | | |
|---|--------|----|
| 1 | ごみはどこへ | 単元 |
| 2 | 水はどこから | 単元 |
| 3 | 暮らしと電気 | 単元 |

3章 自然災害にそなえるまちづくり

- 1 水害に備えるまちづくり
- 2 火山の噴火にそなえて
- 3 雪の災害にそなえて

教科書『小学社会4』(教育出版)

13

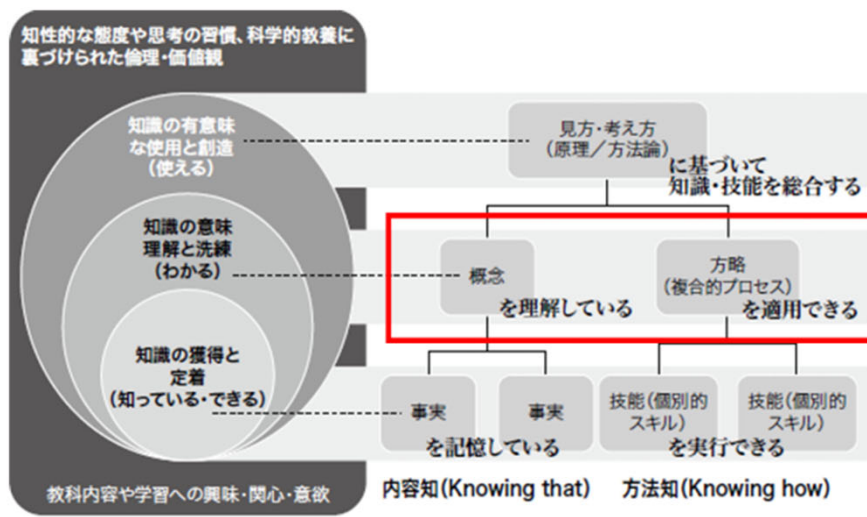
- ・「教育課程企画特別部会(第15回)」令和8[2026]年5月13日
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』令和2[2020]年3月(各教科版)

高次の資質・能力の「高次」はどこまで？

統合的な理解
総合的な発揮

深い学び

高次の資質・能力



考え方 1

高次の資質・能力は
中核的な概念層まで

考え方 2

高次の資質・能力は
見方・考え方まで

(私見)

- **単元**とは、**目標と内容のまとまり**を実際の指導や学習に落とし込んだ、あるまとまりのある学習時間や内容のこと
(例：8時間構成で行う指導や学習)
- **単元学習**を通して、**内容のまとまり**まで評価することが求められる(＝指導と評価の一体化)

社会		小学校
高次の資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	総合的な学習
(1) 身近な地域や市区町村の様子 (2) 市町村の様子 (3) 地域に属する生活や産業の様子 (4) 地域の安全を守る働き	身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所にも見られること。地域の歴史と文化の継承や発展の姿に目を向けていくことが求められる。 地域に属する生活や産業は、地域の人の生活と密接に関わり合っていること。地域の安全を守る働きは、地域の安全を守る働きに貢献していること。 身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所にも見られること。地域の歴史と文化の継承や発展の姿に目を向けていくことが求められる。	位置や空間的な広がり、時間や経緯の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、多角的に考え、表現することができる。 位置や空間的な広がり、時間や経緯の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、多角的に考え、表現することができる。
内容のまとまり		目標と内容
(1) 身近な地域や市区町村の様子 (2) 市町村の様子 (3) 地域に属する生活や産業の様子 (4) 地域の安全を守る働き	身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所にも見られること。地域の歴史と文化の継承や発展の姿に目を向けていくことが求められる。 地域に属する生活や産業は、地域の人の生活と密接に関わり合っていること。地域の安全を守る働きは、地域の安全を守る働きに貢献していること。 身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所にも見られること。地域の歴史と文化の継承や発展の姿に目を向けていくことが求められる。	位置や空間的な広がり、時間や経緯の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、多角的に考え、表現することができる。 位置や空間的な広がり、時間や経緯の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、多角的に考え、表現することができる。
目標と内容に基づいた「指導と評価の一体化」(学習評価)		
・「教育課程企画特別部会(第15回)」令和8[2026]年5月13日 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』令和2[2020]年3月(各教科版)		2章 健康なくらしとまちづくり 1 ごみはどこへ 単元 2 水はどこから 単元 3 ぐらしと電気 単元 3章 自然災害にそなえるまちづくり 1 水害に備えるまちづくり 2 火山の噴火にそなえて 3 雪の災害にそなえて 教科書『小学社会4』(教育出版)

- 改訂審議では、**内容**を観点(知識及び技能／思考力・判断力・表現力等)に対応させるだけでなく、**高次の資質・能力**(統合的な理解・総合的な発揮)にまで対応させて、一体的表記をしている。

- 以上のことは、単元学習が高次の資質・能力を身に付けることまで含めて扱われていることを意味する。

- 教科の本質は、**内容のまとまり**を総合的にまとめた**見方・考え方**として示されるものであり、それゆえ、単元を超えることが教科の本質と言うことはできても、単元を超えた学習(見方・考え方)を評価対象とまで言うことはできない。

ここが間違っています

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

1

※高次の資質・能力（統合・総合）は直接的な評価対象ではない

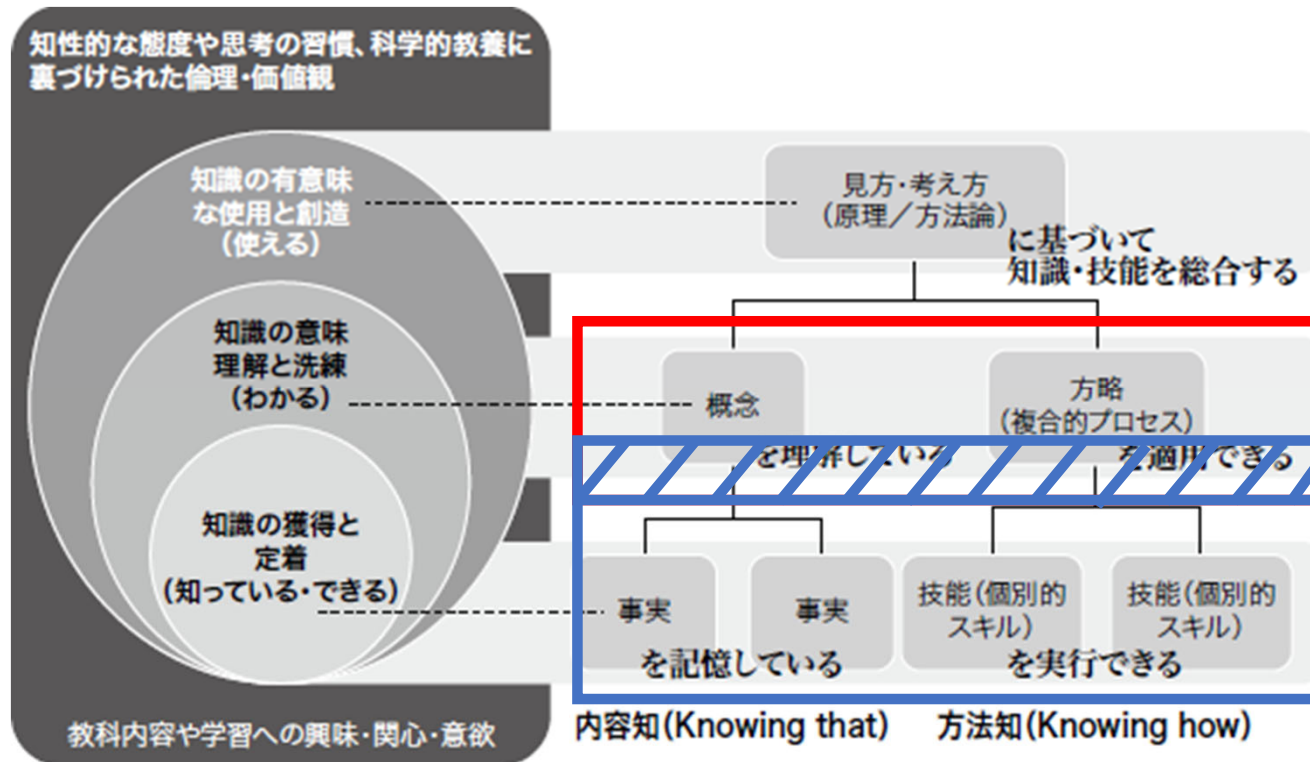
評価対象はここ

2

高次の資質・能力を「活かして」単元構想を求める

※「統合的な理解」及び「総合的な発想」（以下「高次の資質・能力」）の記載は第9回算数・数学WGの御議論を踏まえて事務局にて修正したもの（今後WGにて審議予定）。「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、高次の資質・能力を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。		第5学年相当 単元名：割合（百分率）	
（統合的な理解） ・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。		（総合的な発想） ・事象における二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。 ※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意	
（単元目標・評価規準）知識及び技能 （ア）二つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。 （イ）百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。		（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等 （ア）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定している。 （イ）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察している。	
時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり	
8 7	●学習の振り返り ●評価課題	二つの数量の関係どうしの比べ方を理解する。（ア）	事象における二つの数量の関係に着目し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を説明する。（イ）
6	●日常生活における割合を用いた問題	百分率を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を理解する。（ア・イ）	二つの数量の関係に着目し、日常場面における百分率を用いた割り引きや割増しの比べ方について考察するとともに、二つの数量の関係どうしを比べる問題を設定している。（ア・イ）
5	●百分率の問題	百分率を用いて、基準量と比較量の求め方を理解する。（イ）	
4	●百分率や歩合の意味と表し方	百分率による割合の表し方を理解し、割合を百分率で表したり、百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。（イ）	
3	●他の事象における割合を用いて比べる問題	異なる事象でも、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。（ア）	異なる事象（例えば、委員会やクラブの定員に対する希望者数の比較）で、二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定する。（ア） 異なる事象でも、二つの数量の関係に着目し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方が使えるかを考察する。（イ）
2 1	●二つの数量の関係どうしの比べ方	二つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解する。（ア） 二つの数量の関係を表した数（割合）を比べる学習であることを理解する。（ア）	二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べられる事象が、他にもあるかを予想する。（ア） 基準量と比較量に比例関係を認め、基準量や比較量を揃えたり、比較量÷基準量で求められた二つの数量の関係を表した数（割合）を用いたりして、様々な二つの数量の関係どうしの比べ方を図や式を用いて考察する。（イ） 入ったシュートの本数と打ったシュートの本数という二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定する。（ア）
本単元の学習に関連が強い既習内容		（第4学年）簡単な場合についての割合 （第5学年）簡単な場合の比例の関係、小数の乗法及び除法、測定値の平均、異種の二つの量の割合	
		（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】 ・事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている ・問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意	

知の構造に対応させて理解すると…



高次の資質・能力
(統合・総合)

単元目標・評価対象

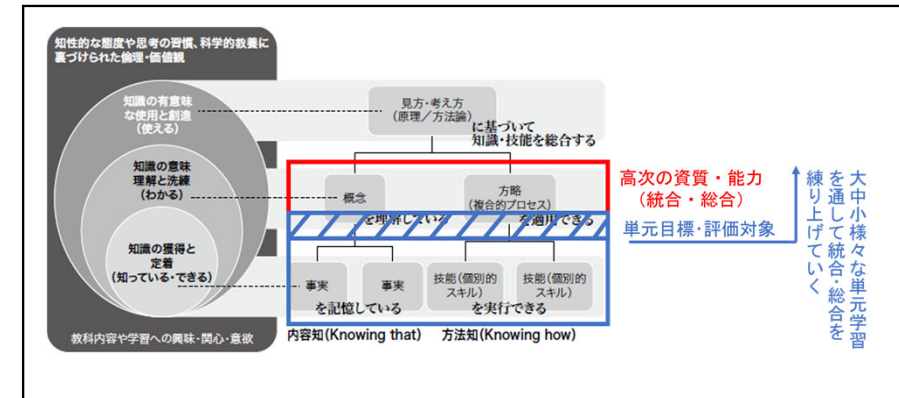
大中小様々な単元学習
を通して統合・総合を
練り上げていく

問題点

- いわゆるカリキュラム・オーバーロードの問題はどこに行ったか？

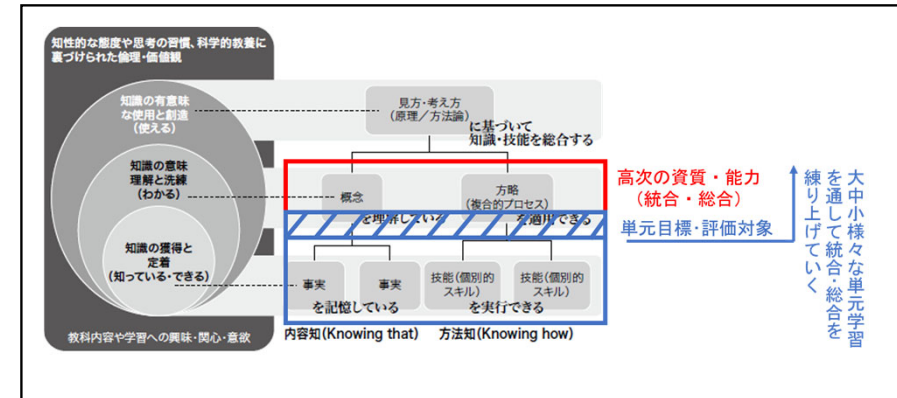
→概念型授業（指導・学習）というのは、第2層（概念・方略）を主軸にして第1層（事実・技能）の学習を行うことだが、結局は第1層から第2層へと上げるこれまでの授業法を踏襲することとなる。これでカリキュラム・オーバーロードの問題はクリアーするのか。また、本質的に現行の指導要領と何が新しくなったのか。

→主体的・対話的な学び（特に話し合いやICT利用など）によって学習における情報量は膨大になっている。今後、これにデジタル教科書の部分導入によって情報量はますます膨大となる。私はこの問題までにらんでの（中核的な）概念の深い理解（＝概念型授業）による解消だと考えてきたが、どうもそうではないようだ。しかし…。



- 「**高次**の資質・能力」と呼んでいるが、各教科等WGからまとめられたものは、これまでも各教科等が目指す目標、内容（のまとめ）を最新のものにしただけのものであって、決して**高度**な資質・能力を目指すものとはなっていない。評価対象にならないということで、各教科等は納得するのか？

- 教師は国がここまで配慮しないと概念型授業ができないのか。



社会		小学校	
高次の資質・能力		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	統合的な応用
私たちの生活と地域・市町村の様子	(1) 身近な地域や市町村の様子	身近な地域や市町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所による違いがあること、時間の経過とともに移り変わってきたことを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市町村の地理的環境や移り変わりを、人々の生活の変化について考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
	(2) 市の子の移り変わりを	地域に暮らす生活や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもちつづけていることや消費生活の多様な働き手や職種の働き手によって成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生活や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。
	(3) 地域に暮らす生活や販売の仕事	地域に暮らす生活や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもちつづけていることや消費生活の多様な働き手や職種の働き手によって成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生活や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。
	(4) 地域の安全を守る働き	地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に迅速な対応を行うこと、地域の人々や事業者が防災や事故などの防止に努めていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地域の安全を守る活動の重要性について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
私たちの生活と都道府県・都	(1) 都道府県の様子	自分たちの都道府県は、地形や気候など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
	(2) 県の様子	自分たちの都道府県は、地形や気候など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
	(3) 人々の健康や生活環境を支える事業	人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持・向上に役立っており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	(4) 自然災害から人々を守る活動	自然災害から人々を守る活動は、これまで関係機関や地域の人々が連携して対応してきたり、今後防災意識を高めて様々な備えをして、人々を自然災害から守っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然災害から人々を守る活動の重要性を多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
内容のまとめ		目標と内容	
		目標と内容に基づいた「指導と評価の一体化」(学習評価)	

2章 健康な暮らしとまちづくり

- ごみはどこへ
- 水はどこから
- くらしと電気

3章 自然災害にそなえるまちづくり

- 水害に備えるまちづくり
- 火山の噴火にそなえて
- 雪の災害にそなえて

審議まとめの方向性

- ①「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか
- ②「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？
- ②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー
- ②補足Part2 現場の授業力に配慮して高次の資質・能力は評価せずー現実対応、それで現場は変わるか？
- ③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ
- ④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？
- ⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

